

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第2区分

【発行日】平成27年11月12日(2015.11.12)

【公開番号】特開2015-174843(P2015-174843A)

【公開日】平成27年10月5日(2015.10.5)

【年通号数】公開・登録公報2015-062

【出願番号】特願2014-52612(P2014-52612)

【国際特許分類】

A 6 1 K	38/00	(2006.01)
C 1 2 N	15/09	(2006.01)
A 6 1 P	43/00	(2006.01)
A 6 1 K	48/00	(2006.01)
A 6 1 K	45/00	(2006.01)
A 6 1 K	31/7088	(2006.01)
A 6 1 P	35/00	(2006.01)
A 6 1 K	35/76	(2015.01)
C 0 7 K	14/47	(2006.01)

【F I】

A 6 1 K	37/02	Z N A
C 1 2 N	15/00	A
A 6 1 P	43/00	1 0 5
A 6 1 K	48/00	
A 6 1 K	45/00	
A 6 1 K	31/7088	
A 6 1 P	35/00	
A 6 1 K	35/76	
C 0 7 K	14/47	

【手続補正書】

【提出日】平成27年8月21日(2015.8.21)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

E L A モチーフを少なくとも一部分として含んでいるタンパク質、または、上記タンパク質をコードしているポリヌクレオチドを少なくとも一部分として含んでいる核酸、を含む細胞死促進剤であって、

以下の(a)または(b)に記載のポリペプチドを少なくとも一部分として含んでいるタンパク質、または、上記タンパク質をコードしているポリヌクレオチドを少なくとも一部分として含んでいる核酸、を含んでおり、

上記E L A モチーフを少なくとも一部分として含んでいるタンパク質を構成するアミノ酸の総数が、50個以下であることを特徴とする細胞死促進剤：

(a)配列番号1に示されるアミノ酸配列からなるポリペプチド；

(b)配列番号1に示されるアミノ酸配列において11個以内のアミノ酸が欠失、置換若しくは付加されたアミノ酸配列からなり、かつ、サイクリンとP P 2 A B' サブユニットとの結合を阻害するポリペプチド。

【請求項 2】

投与対象が、DNA二本鎖切断を発症している生体、または、DNA二本鎖切断を発症させるための処置が施される生体、であることを特徴とする請求項1に記載の細胞死促進剤。

【請求項 3】

上記生体は、線照射、X線照射、トポイソメラーゼI阻害剤の投与、または、トポイソメラーゼII阻害剤の投与によって、DNA二本鎖切断を発症している生体、または、DNA二本鎖切断を発症させるための処置が施される生体であることを特徴とする請求項2に記載の細胞死促進剤。

【請求項 4】

DNA二本鎖切断を発症させる薬剤を含んでいることを特徴とする請求項1～3の何れか1項に記載の細胞死促進剤。

【請求項 5】

上記薬剤は、トポイソメラーゼI阻害剤およびトポイソメラーゼII阻害剤からなる群より選択される少なくとも1つであることを特徴とする請求項4に記載の細胞死促進剤。

【請求項 6】

上記タンパク質をコードしているポリヌクレオチドは、以下の(c)または(d)のDNAを少なくとも一部分として含んでいるポリヌクレオチドであることを特徴とする請求項1～5の何れか1項に記載の細胞死促進剤：

(c)配列番号3に示される塩基配列からなるDNA；

(d)配列番号3に示される塩基配列からなるDNAと相補的な塩基配列からなるDNAヒストリジントな条件下でハイブリダイズし、かつ、サイクリンとPP2A B'サブユニットとの結合を阻害するポリペプチドをコードするDNA。

【請求項 7】

上記タンパク質をコードしているポリヌクレオチドを少なくとも一部分として含んでいる核酸は、発現ベクター内に、上記タンパク質をコードしているポリヌクレオチドが挿入されたものであることを特徴とする請求項1～6の何れか1項に記載の細胞死促進剤。

【請求項 8】

上記発現ベクターは、プラスミド、ファージベクター、ウイルスベクター、または、ウイルス粒子であることを特徴とする請求項7に記載の細胞死促進剤。

【請求項 9】

アポトーシスを誘導するものであることを特徴とする請求項1～8の何れか1項に記載の細胞死促進剤。